

NO.	質問内容	回答内容
Q1	<p>建築大工部門の原寸図に関する質問です。 隅木の二面展開図について、隅木を正面より右から見て、山削りを含む側面図をかいた上に上バの展開をかくことは減点対象になりますでしょうか。 差し金術と平面図からの原寸引きつけを併用し、展開図をかきたいと思っているので気になりまして質問させて頂きました。</p>	<p>「山削りを含む側面図をかいた上に上バの展開をかくこと」は特に減点対象とはなりません。</p>
Q2	<p>現寸図は、上端と右側面の2面を展開とありますが、上端は左右の山を描くことが基本でしょうか？ 右側の上端だけでも、よいのでしょうか？</p>	<p>現寸図の上端は右側の上端だけでなく左右の山を描いてください。</p>
Q3	<p>① 垂木が隅木に取り付く部分で、垂木の上半分が隅木に入り込む形になりますか。 隅木は垂木が取り付く上半分を水平方向に8mmだけ欠き取り、垂木は隅木に掛かる上半分を出っ張らせる加工になると思われます。 ② 釘が課題要項の図の位置から少しでもずれていると減点になりますか。特に垂木の場合、材の面に対して垂直に打った方が釘の利きが良いと思うのです。そうすると、釘の位置は課題要項の図から少し離れた場所になるようです。</p>	<p>①隅木とたる木の取り合い部は、たる木成の上半分を真上から見て8mm、大入れに納めます ②課題図に示した釘の位置、方向は一例として示したものです。釘の位置や方向は選手が釘の利きや釘先が突出しないよう考慮して決めて結構です。</p>
Q4	<p>1. 要項(3) 墨付け「ㄣ」において、“柱及び棟桁には”とあるが、これは、“桁及び棟桁には”の誤りではないか。(柱には、上端・下端はないので) 2. 現寸図仕様において、“隅木展開図(2面)”とあるが、上端の隅木両山を一面として考えてよいのか。 3. 隅木と垂木の取り合い部(仕口)は垂木の「木半分」を材軸方向に延ばして腰掛けと考えればよいのか。 (真上から見て8mmの隅木と垂木の関係は、腰掛けは隅木の山勾配と同じと考えて正しいのか)</p>	<p>1. ご指摘の通り、課題P2(3) 墨付けのㄣ「柱及び棟桁には・・・」は「桁及び棟桁に・・・の」誤りでしたので、訂正いたします。 2. 上端の隅木の両山を一面としてお考え下さい。 3. 木とたる木の取り合い部は、たる木成の上半分を真上から見て8mm、大入れに納めます。</p>